

3月28日(水) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
9:15	A201 ○柴卓也 ¹ ・木珠樹 ¹ ・笹谷孝英 ¹ ・早野由里子 ¹ ・樋口博也 ¹ ・渡辺正幸 ² ・諏訪順子 ² (中央農研センター ¹ ・茨城県病害虫防除所 ²) 茨城県筑西市におけるイネ縞葉枯病の発生、および媒介虫ヒメトビウンカとイネ縞葉枯ウイルスの動態について	B201 ○新井朋徳 ¹ ・土田聡 ^{1,2} (農研機構果樹研ブドウ・カキ・農研機構 果樹研究所 ²) フジコナカイガラムシ1齢幼虫の両面テープによるモニタリング	C201 ○中秀司 ¹ ・窪田蒼起 ¹ ・四方圭一郎 ² ・Le Van Vang ³ ・安藤哲 ³ (鳥取大・農 ¹ ・飯田市美術館博物館 ² ・東京農工大BASE ³) スカシサン (<i>Prismosticta hyalinata</i>) の性フェロモン: 同定と野外試験	D201 ○高野俊一郎 ¹ ・望月淳 ² ・小西和彦 ³ ・高須啓志 ⁴ ・中村達 ⁵ (九大・生資環 ¹ ・(独)農環研 ² ・(独)北農研 ³ ・九大・農 ⁴ ・(独)国際農研 ⁵) キムネクロナガハムシ2系統のPCR-RFLPによる識別と地理的分布	E201 ○伊藤政雄 ¹ ・谷内弘道 ² (高知農技セ ¹ ・高知農技セ・果樹試 ²) 高知県におけるニホンナシを加害するフタモンダラメイガの発生活態の解明および防除実証	F201 ○中尾史郎・近森ちさこ(京都府大院・応用昆虫) ウスグロアザミウマ <i>Frankliniella fusca</i> Hinds (アザミウマ目: アザミウマ科) の生活史形質に及ぼす高密度飼育の効果
9:30	A202 ○大塚彰 ¹ ・真田幸代 ¹ ・松村正哉 ¹ ・Shou-Hong Huang ² (九沖農研 ¹ ・嘉義農試 ²) 台風によりアジアの個体群間境界を越えて移動するトビロウカカの解析事例	B202 ○杉山恵太郎 ¹ ・十亀美穂 ¹ ・石川隆輔 ² ・神谷健太 ³ (静岡防除所 ¹ ・静岡中遠農林 ² ・静岡農林技研果樹研セ ³) 静岡県内のカキ産地におけるフェロモントラップを用いたフジコナカイガラムシの防除適期の予測	C202 ○上原拓也 ¹ ・中秀司 ² ・松山茂 ¹ ・安藤哲 ³ ・本田洋 ¹ (筑波大・生命環境 ² ・鳥取大・農 ² ・農工大・BASE ³) 日本産スズメガの性フェロモン成分の探索-2	D202 ○有本誠 ¹ ・岩泉連 ¹ ・荒川賢良 ² ・佐藤雅 ¹ (横浜植防 ¹ ・横浜植防; 現・横浜植防東京支所 ²) 日本産 <i>Lymantria</i> 属のPCR-RFLP法による識別	E202 ○石本万寿広 ¹ ・山代千加子 ¹ ・山下亜樹 ¹ ・望月文昭 ² ・福本毅彦 ² (新潟農総研作物研 ¹ ・信越化学 ²) マメシクイガに対する性フェロモン成分の交信攪乱効果	F202 ○垣内加奈子・広瀬拓也・下元満喜(高知農技セ) チャノキイロアザミウマ新系統の発育に及ぼす温度の影響
9:45	A203 ○藪哲男 ¹ ・宮下奈緒 ¹ ・安田美香 ² (石川県農業総合研究センター ¹ ・中央農業総合研究センター ²) クモヘリカメムシ広域管理のための地理情報システム(GIS)に基づく分布解析	B203 ○杖田浩二 ¹ ・小枝俊仁 ² ・妙楽崇 ¹ ・鈴木俊郎 ³ (岐阜農技セ ¹ ・岐阜防除所 ² ・岐阜農業経営課 ³) 合成性フェロモンを利用したカキノヘタムシガの発生予察の可能性について	C203 ○本田洋 ¹ ・上原拓也 ¹ ・中秀司 ² ・松山茂 ¹ ・Le Van Vang ³ ・安藤哲 ³ (筑波大・生命環境 ¹ ・鳥取大・農 ² ・農工大・BASE ³) サザナミズメの性フェロモン成分としてのC15共役ジエンアルデヒドの同定	D203 ○野村昌史(千葉大院・園芸) ミトコンドリアDNA遺伝子によるキンウワバ類の分子系統解析	E203 ○中西友章 ¹ ・中牟田潔 ² ・福本毅彦 ³ ・望月文昭 ³ (徳島県果樹研究所 ¹ ・千葉大院・園芸・化学生態 ² ・信越化学 ³) ヒメボクトウ多発生ナシ園における性フェロモンを用いた交信攪乱の効果	F203 ○吉松孝宏・尾川宜広(鹿児島農総セ果樹) 施設栽培マンゴーにおけるチャノキイロアザミウマの季節的変動
10:00	A204 ○西島裕恵 ¹ ・高橋明彦 ² ・竹内博昭 ² (富山農総技セ農研 ¹ ・中央農研・北陸セ ²) アカスジカスミカメとアカヒゲホソミドリカスミカメの高温条件下での産卵能力と羽化率	B204 ○大堀智也・小山千明(群馬県農業技術センター) 群馬県における果樹カメムシ類の発生動向と飛来量の予測	C204 ○藤井達也 ¹ ・望月文昭 ¹ ・村上芳照 ² ・内田一秀 ² ・田端純 ³ ・杉江元 ³ (信越化学工業株式会社 ¹ ・山梨県果樹試験場 ² ・農業環境技術研究所 ³) ブドウオオトリバ <i>Platyptilia ignifera</i> の性フェロモン	D204 ○長田庸平(大阪府大院・生環) 日本産シタケオオヒロゾゴガ属の分類学的研究—各種の分布と種群について—	E204 ○上田明良(森林総研九州) アカエゾマツ人工林におけるプッシュプル法によるヤツバキクイムシ防除	F204 ○奈良井祐隆・澤村信生 ¹ ・田端純 ² ・杉江元 ² (鳥根農技セ ¹ ・農環研 ²) ブドウ園でのマツモトコナカイガラムシ <i>Crisicoccus seruratus</i> の発生状況と被害
10:15	A205 ○笹山淳平・本林隆(農工大・農学府) 畦畔への稲藁マルチ導入が水田内のクモ類の動態に与える影響	B205 ○殿河内寿子・河村俊和・溝部信二(山口県農林総セ) 果樹カメムシ類の発生予察手法の改善～生産者自身が飛来を確認する～	C205 ○松田基義 ¹ ・小野知洋 ² ・西田律夫 ¹ (京大院農 ¹ ・金城学院大 ²) アオマツムシの配偶行動に関わる雄背面分泌腺成分	D205 ○鮎澤聡 ¹ ・宮川一志 ² ・豊田賢治 ² ・井口泰泉 ² ・松下明 ¹ ・松村明 ¹ (筑波大・医学医療系 ¹ ・岡崎統合バイオ ²) 偏光顕微鏡を用いたミジンコのライブ観察	E205 ○佐藤一輝 ¹ ・光川侑輝 ¹ ・山本福壽 ² ・竹内祐子 ¹ ・二井一禎 ¹ (京大農学部 ¹ ・鳥取大学農学部 ²) コナラへのVaccination処理がナラ枯れ伝播昆虫に及ぼす影響	F205 ○妙楽崇・杖田浩二(岐阜農技セ) 夏ダイコン産地におけるキスジノミハムシ発生様式の地域間差
10:30	A206 ○北澤健・江波義成・近藤篤・那須大城(滋賀農技セ) センチピードグラスによる畦畔植生管理が水田のクモ類と寄生蜂類の群集構造に及ぼす影響	B206 ○内田一秀・村上芳照・綿打享子・功刀幸博(山梨果試) クビアカスカシバの生態と人工飼料	C206 ○松山茂(筑波大・生命環境) カマキリタマゴカツオブシムシ <i>Thaumaglossa rufocapillata</i> (Coleoptera: Dermestidae) の性フェロモン—候補化合物の推定・合成—	D206 ○井手竜也・阿部芳久(九大院・比文) クスギハマルタマバチ(膜翅目: タマバチ科: ナラタマバチ族) の両性世代における成虫の形態およびゴールの形状	E206 ○豊里哲也 ¹ ・熊野了州 ¹ ・城本啓子 ¹ ・滝澤匡 ¹ ・栗和田隆 ² ・久場洋之 ³ ・原口大 ⁴ (琉球産経(株) ¹ ・九沖農研 ² ・沖縄防技セ ³ ・沖縄農研セ ⁴) イモゾウムシに感染する原虫は感染したオスにより他個体に伝搬される	F206 ○高倉耕一・山崎一夫(大阪市環科研) 植食者アブラムシはイヌノフグリの石垣上生育を支えているか?

3月28日(水) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
10:45	A207 ○志磨秀人(東京農大) 水田におけるクモ類の空間的分布	B207 ○上杉龍士・佐藤安志(野茶研・金谷) 侵入害虫チャトゲコナジラミと天敵寄生蜂の侵入地点からの分布拡大解析	C207 ○辻井直 ¹ ・安居拓恵 ¹ ・望月文昭 ³ ・若村定男 ^{1,2} ・新垣則雄 ⁴ (農生研 ¹ ・京都学園大 ² ・信越化学 ³ ・沖縄農研セ ⁴) ケブカアカチャコガネのメスが放出する性フェロモン2-ブータノールの異性体比率の経時変化とオスへの誘引性	D207 ○山田量崇 ¹ ・安永智秀 ² ・市川俊英 ³ (徳島県立博物館 ¹ ・米自然史博物館 ² ・香川大学 ³) クスギの樹液滲出部で見つかったズイムシハナカメムシ属の未記載種	E207 ○親富祖明 ¹ ・山岸正明(沖縄防技セ) イモゾウムシの人工飼料による大量飼育の現状と課題	F207 渡邊麻里 ¹ ・佐藤智 ² ・安田弘法(山形大・農) セイタカアワダチソウ上のナミテントウの生存を可能にする要因について
11:00	A208 ○下元満喜 ¹ ・伊藤政雄 ¹ ・安達鉄矢 ¹ ・古味一洋 ¹ ・廣瀬拓也 ² (高知農技セ ¹ ・高知農技セ 果樹試 ²) 施設カンキツ類のミカンハダニに対するスワルスキーカブリダニの防除効果	B208 ○行徳裕 ¹ ・江口幸栄子 ¹ ・樋口聡志(熊本農研セ) 連棟ハウスにおけるタバココナジラミの移動とCCYVの感染拡大	C208 ○田端純 ¹ ・奈良井祐隆 ² ・澤村信生 ² ・杉江元 ¹ (農環研 ¹ ・島根農技セ ²) マツモトコナカイガラムシ <i>Crisicoccus seruratus</i> の性フェロモン物質	D208 ○綿引大祐 ¹ ・吉松慎一 ² ・吉武啓 ² ・馬場友希 ² ・上里卓己 ³ ・島谷真幸 ³ ・指宿浩 ⁴ ・湯田達也 ⁴ (東京農大 ¹ ・農環研 ² ・沖縄防除セ ³ ・鹿児島農業開発総セ ⁴) アフリカンロナヨトウ用のフェロモントラップで誘殺される日本産 <i>Spodoptera</i> 属成虫の識別法の開発	E208 ○宮竹貴久 ¹ ・香月雅子 ¹ ・大前雄介 ² ・岡田賢祐 ¹ ・加村徹 ² ・原口大 ³ ・松山隆志 ⁴ ・小濱継雄 ³ (岡大院・環境 ¹ ・岡大・農 ² ・沖縄県農研セ ³ ・沖縄県病害虫防技セ ⁴) UV-LED試作トラップに対するイモゾウムシ成虫の誘引性について	F208 ○鈴木紀之 ¹ ・大澤直哉 ² ・西田隆義 ³ (京大昆虫生態 ¹ ・京大森林生態 ² ・滋賀県大 ³) クリサキテントウにおける幼虫のパフォーマンスと成虫の産卵嗜好性の不一致：繁殖干渉による適応的な説明
11:15	A209 ○岡崎真一郎 ¹ ・雨川公洋 ¹ ・玉嶋勝範 ¹ ・桃下光敏 ² (大分農林水研農業 ¹ ・アリスTALS ²) 夏秋ピーマンにおける硫黄粉剤散布とスワルスキーカブリダニ放飼との併用によるIPM体系	B209 ○春山直人 ¹ ・小林誠 ² ・大森貴寿 ¹ ・松本華苗 ¹ (栃木農環セ ¹ ・栃木農試 ²) 栃木県イチゴほ場におけるアザミウマ類の発生消長と種構成および被害調査法の検討	C209 ○葉丸亮太・秋野順治(応生・京工織) ヨコヅナサンガメの配偶行動解発因子	D209 ○星野啓太・岩淵喜久男(農工大・応用昆虫学) トラカミキリ類における雄フェロモン腺の形成過程およびその進化発達機構	E209 ○菊川華織 ¹ ・宮崎勲 ¹ ・渡久地章男(那覇植物防疫事務所) アリモドキゾウムシ劣化虫体の遺伝子解析	F209 ○土居勇人 ¹ ・深野祐也 ² ・小山哲史 ¹ ・佐藤俊幸 ¹ ・普後一 ¹ (農工大・農 ¹ ・九大院・シス生 ²) 植物側の進化による、ブタクサハムシの宿主範囲拡大の可能性
11:30	A210 ○増井伸一 ¹ ・片井祐介 ¹ ・土田裕大 ¹ ・万年潤哉(静岡農林技研) 温室メロン栽培でスワルスキーカブリダニと併用可能な農薬の選抜	B210 ○相澤美里 ¹ ・渡邊丈夫 ¹ ・十川和士 ¹ ・熊野明美(香川県農業試験場) 蛍光増白剤を用いたIYSV媒介虫ネギアザミウマの標識法	C210 ○水谷信夫 ¹ ・安田哲也 ² ・守屋成一 ² (九州沖縄農研 ¹ ・中央農研 ²) 異なるマメ科種子を与えたホソヘリカメムシの発育とフェロモン成分保持量	D210 ○西野実 ¹ ・鈴木賢(三重県農業研究所) 水田転換畑キャベツで多く捕獲されるオオヒラタゴミムシによる害虫の捕食	E210 ○国本佳範 ¹ ・神川諭(奈良県農業総合センター) 露地栽培での微細ネットの簡易な設置法の開発	F210 ○加賀玲子 ¹ ・日下部良康 ² ・岩田隆太郎 ² (神奈川県平塚市 ¹ ・日大・生物資源 ²) シロスジカミキリの産卵加工の意味と幼虫の栄養摂取：シロスジママは偉かった
11:45	A211 ○黒木修一 ¹ ・原口祐輔 ² ・木佐貴守 ² (宮崎県営農業支援課 ¹ ・宮崎県中部農林 ²) スワルスキーカブリダニの秋放飼による促成キュウリのミナミキイロアザミウマ防除	B211 ○加進文二(宮城古川農試) フェロモントラップを用いたマメシクイガの防除時期の決定		D211 ○羽田厚 ¹ ・多田典徳 ² ・森沢巧 ³ ・鈴木敏男 ⁴ (岩手農研セ・環境部 ¹ ・岩手農研セ・環境部 ² ・岩手農研セ・県北研 ³ ・岩手奥州農改セ ⁴) 寒冷地のキャベツ圃場における環境保全型農業の指標生物種としての2種のゴミムシ類の動態	E211 ○村上芳照 ¹ ・高橋弘行 ² ・内田一秀 ¹ ・綿打享子 ¹ ・功方幸博 ¹ (山梨果試 ¹ ・(株)サイエナジー ²) モモ果実輸出に向けたモモシクイガの防除とX線をを用いた被害果の検出	F211 ○徳田誠 ¹ ・松尾和典 ² ・湯川淳一 ² ・桐谷圭治 ³ (佐大 ¹ ・九大 ² ・伊東市 ³) 三宅島における火山活動がシロダモタマバエ個体群に及ぼした影響

3月28日(水) 午後 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
15:15	A212 ○大朝真喜子・平野耕治(石原産業(株)中央研究所) アカメガシワクダアザミウマとスワルスキーカブリダニのアザミウマ捕食能力の比較	B212 ○鈴木賢・西野実(三重県農業研究所) 三重県におけるミナミアオカメムシの作物間移動とダイズにおける増殖	C211 安台梨乃・○秋野順治(京工織大応生) アミメアリの採餌戦略—防御物質として機能する情報化学物質—	D212 ○高田裕司 ¹ ・日本典秀 ² (長崎農技セ ¹ ・農研機構・中央農研 ²) DNAバーコーディングによる諫早湾干拓産ゴミムシ類の識別	E212 ○村井保 ¹ ・小山田浩一 ² ・二俣賢 ³ (宇都宮大・応昆 ¹ ・栃木農試 ² ・日本液炭 ³) 高濃度炭酸ガス処理によるイチゴの害虫フリー化	F212 ○藤家梓 ¹ ・Michael H. Otim ² ・後藤明生 ³ ・松本 俊輔 ³ ・夏秋 啓子 ⁴ ・寺嶋芳江 ⁵ (Former JICA) Expert ¹ ・NaCRRI ² ・JICA ³ ・Tokyo Univ Agr ⁴ ・Univ Ryukyus TBRC ⁵) ガンダのイネにおけるシユモクバエ類(デメバエ類)の発生と行動
15:30	A213 ○伊藤勇弥・大朝真喜子・平野耕治(石原産業・中央研究所) アカメガシワクダアザミウマへの化学農薬影響評価試験	B213 ○遠藤信幸 ¹ ・寺田充芳 ² ・横須賀知之 ² ・清水信孝 ³ ・堤隆文 ³ ・佐々木力也 ⁴ ・武藤進悦 ¹ (九州沖縄農研 ¹ ・茨城農総セ農研 ² ・福岡農総試 ³ ・富士フレーバー(株) ⁴) ミナミアオカメムシおよびアオクサカメムシのフェロモン成分に対する誘引性の差異	C212 ○松本繁 ¹ ・秋野順治 ² (アース製薬 ¹ ・京工織大応生 ²) アミメアリの死体認識物質	D213 籠洋 ¹ ・沢田裕一 ¹ ・西田隆義 ¹ ・高倉耕一 ² ・Susanto Agus ³ ・○塚田森生 ⁴ (滋賀県大・環境科学 ¹ ・大阪市立環境研 ² ・UNPAD ³ ・三重大・生物資源 ⁴) 同所的な2種ミバエ <i>Bactrocera carambolae</i> と <i>B. papayae</i> の簡易判別法	E213 ○兼田武典 ¹ ・中西友章 ² ・小池明 ³ ・吉田隆延 ⁴ ・水上智道 ⁴ (徳島農研 ¹ ・徳島果研 ² ・徳島農総七高支 ³ ・生研センター ⁴) 超音波発振装置を利用したエダマメとダイズにおける虫害防除の可能性	F213 ○Triyogo Ananto ¹ ・安田弘法 ² (UGAS Iwate Univ ¹ ・山形大 ^農) ゴール形成昆虫によるクリの再成長とそれが他の植食者の発生に及ぼす影響
15:45	A214 ○納富尚義 ¹ ・青木隆 ¹ ・川嶋幸喜 ¹ ・鈴江光良 ² ・森口彦弥 ³ ・村井保 ⁴ ・眞壁敏明 ⁵ (神奈川農技七根府川 ¹ ・アースバイオケミカル ² ・大協技研工業 ³ ・宇都宮大 ⁴ ・神奈川農技七足柄 ⁵) ハウスミカン加害アザミウマの紫外光による誘引と圃場での防除効果	B214 ○清水信孝 ¹ ・遠藤信幸 ² ・武藤進悦 ³ ・佐々木力也 ³ (福岡県農業総合試験場 ¹ ・九州沖縄農業研究センター ² ・富士フレーバー株式会社 ³) フェロモントラップによるミナミアオカメムシの発生予察の可能性	C213 ○藤條純夫 ¹ ・松永禎史 ² ・大塚彰 ³ (佐賀大 ¹ ・サンケイ化学 ² ・九州沖縄農研センター ³) 性フェロモンに対する感受性の異なるハスモンヨトウ雄成虫の海外から飛来	D214 ○指宿浩 ¹ ・下津文宏 ² ・中俊二 ¹ ・天野学 ¹ ・中山博之 ¹ ・新屋敷生男 ¹ ・宮路克彦 ³ (鹿児島県大島支庁 ¹ ・鹿児島県農産園芸課 ² ・鹿児島県農総セ大島支場 ³) 喜界島における無人ヘリ利用によるアリモドキゾウムシ不妊虫放飼方法の検討	E214 我妻宏紀・○糸山享(明治大農・応用昆虫) 実験装置内でのハウレンソウケナガコナダニの垂直移動	F214 ○Magdaraog Peter・田中利治(名大院・生命農・害虫制御) 同一ホスト体内における異種のコマユバチ間の競争と resource sharing
16:00	A215 ○片山晴喜 ¹ ・土井誠 ¹ ・萩原一宏 ² ・大村和弘 ² ・渥美剛 ³ ・興津敏広 ³ (静岡防除所 ¹ ・静岡志太榛原農林 ² ・静岡西部農林 ³) 天敵カブリダニ類を中心としたガーベラにおけるIPM(続報)	B215 ○和田志乃・岡崎真一郎・小野元治(大分農林水研農業) フェロモントラップを利用したミナミアオカメムシの発生予察法の検討	C214 ○柿崎昌志(道総研道南農試) アカヒゲホソミドリカスミカメの性フェロモン成分追加と長期間徐放性誘引剤	D215 ○松山隆志 ¹ ・久場洋之 ¹ ・山岸正明 ¹ ・金城邦夫 ¹ ・親富祖明 ¹ ・太田愛子 ¹ ・宮里一也 ¹ ・宮城聡 ¹ ・上原理 ¹ ・西村真 ¹ ・小濱継雄 ² ・原口大 ² ・城本啓子 ³ (沖縄防技セ ¹ ・沖縄農研セ ² ・琉球産経 ³) 久米島におけるアリモドキゾウムシの根絶防除	E215 ○江波義成 ¹ ・芦田安代 ¹ ・刑部正博 ² ・柴崎弘道 ³ ・青木慎一 ³ ・山田真 ³ ・桜井尚史 ⁴ (滋賀農技セ ¹ ・京大院農・生態情報 ² ・パナソニック ³ ・丸和バイオ ⁴) 施設イチゴ栽培における紫外光照射によるナミハダニ密度抑制効果	F215 ○米谷衣代・上船雅義・高林純示(京大・生態研) コナガ食害を受けたアブラナ科植物3種の香りに対する寄生蜂の誘引性

3月28日(水) 午後 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
16:15	A216 ○松尾和典 ¹ ・後村佳奈子 ² ・安部順一郎 ³ ・湯川淳一 ⁴ (九大) 大院・生資環・昆虫 ¹ ・近大・農 ² ・近中四農研 ³ ・九大 ⁴ シヨクガタマバエ(ハエ目:タマバエ科)に寄生する <i>Gastrancistrus</i> 属(ハチ目:コガネコバチ科)の発見と頭部形態に関する考察	B216 ○横澤志織・桑澤久仁厚・清澤靖仁・吉沢栄治(長野県野菜花き試) 長野県のレタスにおけるオオタバコガ誘殺消長と被害消長の関係	C215 ○劉家莉・佐久間正幸(京大院農 昆虫生理) Olfactory conditioning alters searching behavior in the German cockroach	D216 ○金城邦夫 ¹ ・久場洋之 ¹ ・山岸正明 ¹ ・親富祖明 ¹ ・松山隆志 ¹ ・太田愛子 ¹ ・宮里一也 ¹ ・宮城聡 ¹ ・上原理 ¹ ・小濱継雄 ² ・原口大 ² (沖縄防技セ ¹ ・沖縄農研セ ²) 津堅島におけるアリモドキゾウムシ・イモゾウムシ根絶事業	E216 ○八瀬順也・田中雅也・柳澤由加里(兵庫農技総セ) 昆虫が持つ近紫外線視覚の可視化の試みと視覚的防除への利用	F216 ○小松貴 ¹ ・上田昇平 ¹ ・片岡陽介 ¹ ・市野隆雄 ¹ ・清水加耶 ² ・市岡孝朗 ² ・乾陽子 ³ (信大・理 ¹ ・京大院・人環 ² ・大阪教育大・教養 ³) 東南アジア産アリ植物に見られる共生系およびアリの系統学的再検討
16:30	A217 ○光永貴之・長坂幸吉・守屋成一(中央農研) アブラバチ類の寄生によるモモアカアブラムシ産子数への影響の違い	B217 ○鴨志田徹也・上山博(京都防除所) 京都府のアズキにおけるオオタバコガの発生消長および薬剤感受性	C216 ○小野亨 ¹ ・仲島義貴 ² ・Michael Birkett ³ ・Wilf Powell ³ (宮城古川農試 ¹ ・帯広畜産大・昆虫 ² ・Rothamsted Research ³) アブラムシ性フェロモン成分を利用したアブラムシの土着天敵のモニタリング法	D217 ○太田愛子 ¹ ・久場洋之 ¹ ・河野伸二 ¹ ・金城衣恵 ¹ ・松山隆志 ¹ ・親富祖明 ¹ ・金城邦夫 ¹ ・山岸正明 ¹ ・小濱継雄 ² ・原口大 ² ・宇久田理恵 ² (沖縄防技セ ¹ ・沖縄農研セ ²) 沖縄島におけるナスミバエの発生	E217 ○片井祐介・増井伸一・土田祐大・多々良明夫(静岡農林技術研究所) 青色光と紫外線の混合によるミナミキイロアザミウマの誘引特性	F217 ○高木俊 ¹ ・宮下直 ¹ ・加賀谷隆 ¹ ・田中明郎 ¹ ・津田大輝 ¹ ・畠瀬頼子 ² (東大・農 ¹ ・自然研 ²) ニセアカシアが住み場所と餌資源量を介して造網性クモ類に与える間接効果
16:45		B218 ○田中寛 ¹ ・西濱絢子 ² ・井奥由子 ² ・砂池利浩 ² ・那須義次 ² ・岡田清嗣 ¹ ・柴尾学 ¹ (大阪環農総研 ¹ ・大阪府病害虫防除G ²) ネットケージ内放虫法によるナスのオオタバコガの産卵状況	C217 ○岡本朋子・蘇智慧(JT生命誌研究館) イチジク属植物の花の匂いにおける地理的変異	D218 ○小濱継雄 ¹ ・原口大 ¹ ・宇久田理恵 ¹ ・松山隆志 ² ・吉田幸広 ³ ・西田律夫 ³ (沖縄農研セ ¹ ・沖縄防除セ ² ・京大院農 ³) ナスミバエ雄誘引物質の野外における誘引性	E218 ○宮下奈緒・藪哲男(石川県農業総合研究センター) LED光源を用いた露地野菜圃場のヤガ類防除装置の開発—消費電力低減のための点滅周期の検討	F218 ○河野勝行・飯田博之(農研機構 野菜茶業研究所) キャベツほ場の見取り法によるウツキコモリグモ個体数調査における天候の影響
17:00		B219 ○上島慧里子 ¹ ・玉嶋勝範 ¹ ・祖田嘉教 ¹ ・山崎修一 ² ・岡崎真一郎 ¹ (大分農林水研農業 ¹ ・大分豊肥振興局 ²) 防虫ネット被覆によるタバコガ類の被害抑制効果とコスト試算				

3月28日(水) 午前 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	
G201 ○阿部誠・野下浩二・田母神繁(秋田県立大・生物資源) なぜアレチウリは植食性昆虫の食害を受けにくいのか?	H201 ○真田幸代 ¹ ・松村正哉 ¹ ・大塚彰 ¹ ・野田博明 ² (九州農研 ¹ ・生物研 ²) ヒメトビウカ台湾個体群のスピロプラズマ感染によるメス偏向性比	I201 ○笹川浩美 ^{1,2} ((財)国際科学振興財団 FAIS ¹ ・(独)科学技術振興機構JST 日本科学未来館 ²) ミツバチ類のコミュニケーション&社会性行動とヒトの科学コミュニケーション.	J201 ○土田聡 ¹ ・武田光能 ² ・飯田博之 ² (農研機構・果樹研 ¹ ・農研機構・野茶研 ²) 薩南諸島におけるチャノキイロアザミウマ新規系統の分布	K201 ○尾崎まみこ ¹ ・森岡律 ¹ ・小林碧 ¹ ・木村敏文 ² ・池野英利 ² (神大・院理・生物・兵大・環境人間 ²) 複数個体同時追跡コンピュータプログラムによる他個体侵入時のアルゼンチンアリ小集団の行動解析	L201 ○緒方法親 ¹ ・横山岳 ² ・石井一夫 ³ ・松下保彦 ⁴ ・岩淵喜久男 ¹ (東京農工大・応用昆虫学 ¹ ・東京農工大・蚕学 ² ・東京農工大・農学ゲノム ³ ・東京農工大・遺伝子工学 ⁴) カイコガ脂肪体初代培養組織のトランスクリプトーム解析	9:15
G202 ○倉島梢・阿部誠・野下浩二・田母神繁(秋田県立大・生物資源) オオタバコガ幼虫がトマトの葉よりも未熟果実を好む理由	H202 ○杉本貴史・石川幸男(東大院・農) 短時間の高温処理はボルバキア密度を低減させ、性比に影響を与える	I202 ○安部淳 ¹ ・上村佳孝 ² (神奈川大・理・生物 ¹ ・慶応大・生物 ²) 寄生バチ <i>Melittobia</i> における交尾前行動の質と雌の再交尾率の関係	J202 ○新垣則雄 ¹ ・外間康洋 ¹ ・永山敦士 ¹ ・安藤緑樹 ² ・谷崎樹生 ³ ・村路雅彦 ⁴ ・安居拓恵 ⁴ ・若村定男 ⁴ ・秋野順治 ⁴ ・平井剛夫 ⁴ (沖農研 ¹ ・病防 ² ・石垣市 ³ ・農生研 ⁴) 石垣島において発生時期が異なるケブカアカチャコガネの分布と遺伝子解析	K202 ○辻和希 ¹ ・菊田典嗣 ² ・菊池友則 ³ (琉球大・農 ¹ ・富山大・理 ² ・千葉大・海洋バイオシステム ³) アリも働き過ぎると早死にする? 寿命によるワーカー産卵コストの測定	L202 都築誠司・早川洋一(佐賀大・農学部) 昆虫自然免疫活性調節の新しい情報伝達経路	9:30
G203 ○松本剛史 ¹ ・佐藤重穂 ¹ ・所雅彦 ² (森林総研四国 ¹ ・森林総合研究所 ²) 間伐の実施によるキバチ類の発生数と林内揮発性成分への影響	H203 ○角拓人 ¹ ・宮竹貴久 ¹ ・三浦一芸 ² (岡大院・進化生態 ¹ ・近中四農研 ²) ヤマトシジミとベニシジミにおける <i>Wolbachia</i> 感染率と季節的变化	I203 ○Aye Thanda Win・Kojima Wataru・Ishikawa Yukio(東大院・農) Effects of male age and mating history on male reproductive investment and female fitness	J203 ○日本典秀 ¹ ・安部順一朗 ² ・山根雅史 ³ ・矢野栄二 ³ (農研機構・中央農研 ¹ ・農研機構・近中四農研 ² ・近大・農 ³) ショクガタマバエ地域個体群間の個体群構造	K203 ○笹千舟 ¹ ・宮崎智史 ² ・東正剛 ¹ ・三浦徹 ¹ (北大・環境科学院 ¹ ・富山大・理 ²) トゲオオハリアリの触角形態における性的二型とその分子発生的基盤	L203 ○村田康允 ¹ ・刑部正博 ² (京大・農・生態情報 ¹ ・京大院・農・生態情報 ²) ナミハダニに対するUVBの影響	9:45
G204 ○工藤愛弓・足達太郎(東京農大) 各種人工飼料に対するマメノメイガの選好性とその成育	H204 ○菊池義智 ¹ ・早津雅仁 ² ・細川貴弘 ¹ ・永山敦士 ³ ・多胡香奈子 ² ・深津武馬 ¹ (産総研・生物プロセス ¹ ・農環研・生物生態機能 ² ・沖縄農研 ³) 共生細菌による害虫の農薬耐性	I204 ○香月雅子 ¹ ・原野智広 ² ・宮竹貴久 ¹ ・岡田賢祐 ¹ ・Hosken David ³ (岡山大・進化生態 ¹ ・九大・理 ² ・Univ. of Exeter ³) オオツノコクヌストモドキでは遺伝子座内性的対立と関係して子の性比が偏る	J204 ○安藤喜一(弘前市) 1 化性のカマキリ卵に寄生する多化性のオナガアシトコバチの生活史	K204 ○宇田智哉 ¹ ・秋野順治 ¹ ・山岡亮平 ¹ ・辻井直 ² ・辻和希 ³ (京工繊大 ¹ ・農生研 ² ・琉大 ³) 体表炭化水素は日本産トゲオオハリアリの巢仲間認識フェロモンか?	L204 坂井智哉 ¹ ・網干貴子 ¹ ・泉津弘佑 ² ・田々美健治 ³ ・田中千尋 ² ・西田律夫 ¹ ・森直樹 ¹ (京大院農・応用生命 ¹ ・京大院農・地域環境 ² ・アース製薬 ³) ヒトスジシマカの孵化時におけるアミノ酸代謝とエネルギー産生	10:00
G205 ○菅野亘・村田未果・望月淳(独)農環研) キムネクロナガハムシのヤシ科植物3種への選好性	H205 ○安佛尚志・孟憲英・細川貴弘・深津武馬(産総研・生物プロセス) 人工飼料飼育系によるクロカタゾウムシの共生細菌 <i>Nardoneilla</i> の機能解析	I205 ○大庭伸也 ¹ ・工藤慎一 ² (京大・生態研 ¹ ・鳴門教育大院・学校教育 ²) コオイムシ類における保護オスに対する female choice	J205 ○新井哲夫(芦屋学園短期大学) Mexicoのコオロギ2種 <i>Gryllus</i> sp. の生活史	K205 ○高橋忠裕・秋野順治(京工繊大) キャロウに対する同巢認識は体表炭化水素組成の変化に伴って確立する	L205 ○光嶋脩剛・藤井毅・石川幸男(東大院農) アワノメイガ類における11不飽和化酵素の進化	10:15
G206 ○望月淳 ¹ ・河津圭 ¹ ・村田未果 ¹ ・佐藤幸恵 ^{1,3} ・菅野亘 ¹ ・瀬尾茂美 ² ・光原一郎 ² ((独)農環研 ¹ ・(独)生物研 ² ・JSPS ³) 加害様式の異なる害虫によるトマト葉での抵抗性誘導経路の活性化の違い	H206 ○松浦優 ^{1,2} ・古賀隆一 ² ・深津武馬 ² (筑波大・生命環境 ¹ ・産総研・生物プロセス ²) ヒメナガカメムシにおける菌細胞共生系の分化と進化	I206 ○守屋伸生 ¹ ・藤崎憲治 ² (沖縄防除セ ¹ ・京大院・農・昆虫生態 ²) 繁殖干渉がミナミアオカメムシとアオクサカメムシの分布に与える影響	J206 ○齋藤裕 ¹ ・金澤美季 ¹ ・佐藤幸恵 ² (北大院農動物生態 ¹ ・農環研JSPSフェロー ²) 攻撃性と休眠性の異なるススキスゴモリハダニ2型の生活史比較	K206 ○水野尊文 ¹ ・秋野順治 ¹ ・萩原康夫 ² (京工繊大 ¹ ・昭和大 ²) ミヤマシジミの蛹はなぜアリに攻撃されないのか?	L206 ○RONG YU ¹ ・藤井毅 ¹ ・勝間進 ¹ ・清田隆太郎 ² ・山川玲 ² ・安藤哲 ² ・石川幸男 ¹ (東大院・農 ¹ ・農工大・BASE ²) アメリカシロヒトリのフェロモン腺ESTライブラリーの解析	10:30

3月28日(水) 午前 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	
G207 ○萬屋宏 ¹ ・田中淳一 ² (農研機構・野菜研 ¹ ・農研機構・作物研 ²) チャ遺伝資源におけるチャノミドリヒメヨコバイに対する抵抗性評価	H207 ○中鉢淳 ¹ ・上岡麗子 ² ・大島健志朗 ³ ・Alfonso Mangoni ⁴ ・Mihaela Gurgui ² ・Neil Oldham ⁵ ・Gerhildvan Echten-Deck ² ・井上広光 ⁶ ・大熊盛也 ⁷ ・本郷裕一 ⁸ ・宮城島進也 ⁹ ・服部正平 ³ ・Joern Piel ² ・深津武馬 ¹⁰ (豊橋技科大 ¹ ・ボン大 ² ・東大 ³ ・ナポリ大 ⁴ ・ノッティンガム大 ⁵ ・果樹研 ⁶ ・理研 ⁷ ・東工大 ⁸ ・遺伝研 ⁹ ・産総研 ¹⁰) ミカンキジラミの防衛共生	I207 ○長澤淳彦(東北大院農) イネ科植物の小穂および人工産卵基質に対するアカスジカスミカメの産卵行動	J207 ○湯川淳一 ¹ ・池長裕史 ² ・佐藤信輔 ³ ・徳田誠 ⁴ ・喜久村智子 ⁵ ・上地奈美 ⁶ ・松尾和典 ⁷ ・三島美佐子 ⁸ ・董景生 ⁹ ・白種哲 ¹⁰ ・任保青 ¹¹ ・董晓宇 ¹² (九大 ¹ ・中央農研 ² ・宮大 ³ ・農 ⁴ ・佐大 ⁵ ・農 ⁶ ・沖農研 ⁷ ・果樹研 ⁸ ・九大院 ⁹ ・生資環 ⁷ ・九大 ⁸ ・博 ⁸ ・台湾森林研 ⁹ ・韓国順天大 ¹⁰ ・中国科学院 ¹¹ ・中国科学院 ¹²) クズトガリタマバエの種内グループの分化過程と琉球弧における分布空白地帯	K207 中村和貴・○大河原恭祐(金沢大・自然システム・生物) トビムシ捕食に特殊化したウロコアリにみられる共進化的関係	L207 ○松尾隆嗣 ¹ ・原田枝里子 ² (東大・農学生命 ¹ ・首都大 ² ・生命科学 ²) シヨウジョウバエの匂い物質結合蛋白質OBP57dとOBP57eの機能分化	10:45
G208 ○太田英司・中村匡利・平山力・今野浩太郎(生物研) トウガン滲出液中の耐虫性タンパク質BPLPの構造および性状	H208 ○河合佐和子・野田博明(生物研) 共生細菌の感染によってチャバネアオカメムシの盲囊部で特異的に発現する遺伝子	I208 ○岡西宏之 ¹ ・石川忠 ² ・藤崎憲治 ³ (京大院 ¹ ・農 ² ・昆虫生態 ¹ ・東大 ² ・総合文化 ² ・京大院 ³ ・農 ³ ・昆虫生態 ³) ヤニサシガメの雌成虫は腹部先端から松脂を吸い込む!?	J208 ○飯田博之・河野勝行・武田光能(野菜茶業研究所) 三重県平野部におけるウツキコモリグモの生活史と生活史形質の季節変動	K208 ○土田浩治(岐阜大 ¹ ・応用生物) ニュージーランドに侵入したフタモンアシナガバチ個体群の遺伝的特性	L208 ○龍田勝輔 ¹ ・谷村禎一 ² ・吉川寛 ¹ ・尾崎克久 ¹ (JT生命誌研究館 ¹ ・九大院理 ² ・生物 ²) ナミアゲハ(<i>Papilio xuthus</i>)ふ節感覚子の産卵刺激物質受容機構の解明	11:00
G209 ○長谷川毅・服部誠・野田博明(農生研) トビイロウンカ口針鞘を構成する凝固性タンパク質	H209 ○野田博明・渡部賢司・小泉蓉子(農業生物資源研究所) ツマグロヨコバイのbacteriome共生細菌2種の特徴	I209 ○城本啓子 ^{1,2} ・熊野了州 ^{1,2} ・栗和田隆 ³ ・原口大 ⁴ (琉球産経株式会社 ¹ ・沖縄県病害虫防除技術センター ² ・九州沖縄農業研究センター ³ ・沖縄県農業研究センター ⁴) 大量増殖系統のアリモドキウムシにメス殺しが現れた?—超高密度環境で生じた致死的な操作形質—	J209 川崎まや・藤田真梨子・櫻井厚司・○前藤薫(神戸大院 ¹ ・農) アカスジチュウレンジの夏世代にみられる3つの羽化ピーク	K209 ○山田純一・松尾悠司・山田佳廣(三重大学 ¹ ・生物資源) セグロアシナガバチにおける優劣順位の特徴	L209 ○朴(平野)文守 ¹ ・朴杓允 ² ・竹田真木生 ³ (神戸大 遺伝子実験センター ¹ ・神戸大 農 細胞機能構造 ² ・神戸大 農 昆虫科学 ³) 飢餓がワモンゴキブリの脂肪体共生細菌、及び尿酸細胞に与える影響	11:15
G210 ○Jairin Jirapong ¹ ・真田幸代 ² ・松村正哉 ² ・高木正見 ¹ ・安井秀 ¹ (九州大学 ¹ ・九州沖縄農研センター ²) 抵抗性遺伝子BPH25とBPH26を持つ近似同質系統及び遺伝子集積系統イネにおけるアジア地域トビイロウンカ個体群の加害性	H210 ○小澤理香 ¹ ・植田浩一 ^{1,2} ・松田一彦 ² ・後藤哲雄 ³ ・高林純示 ¹ (京都大 生態研 ¹ ・近畿大 農 ² ・茨城大 農 ³) リママメの食害応答に及ぼすナミハダニの共生微生物の影響	I210 ○越川智瑛・星崎杉彦・石川幸男(東大院農) タマネギバエの産卵は、同種の雌雄成虫の存在によって集中する	J210 ○黒木出・中村圭司(岡山理大 総合情報) テラニシシリアゲアリにおける新女王の産卵と幼虫休眠の誘導に対する低温効果	K210 ○原野健一 ¹ ・小西崇之 ² ・佐々木正己 ² (玉川大 ¹ ・脳科学 ¹ ・玉川大 ² ・農 ²) ミツバチの花粉採集蜂はどのように出巣時積載量を決めているか?	L210 ○竹田真木生 ¹ ・ミカニアザム・松井崇明・王秋実(神戸大学 農学研究科) ゴキブリの脳—中腸ペプチドによる生理機能統合におけるオートクリン調節	11:30
G211 ○松村正哉・真田幸代・大塚彰(九州沖縄農研センター) アジア地域トビイロウンカのネオニコチノイド剤5種に対する感受性の比較	H211 ○上遠野富士夫(法政大(生命科学)) 日本の公園樹木から新たに発見されたフシダニ3種について	I211 ○香取郁夫 ¹ ・Daniel R. Papaj ² (近畿大 ¹ ・農 ¹ ・Arizona Univ. ²) ある種のチョウの幼虫に見られる頭部突起の適応的意義 1. アオジャコウアゲハの場合: 食草探索補助仮説の検証	J211 ○檜垣守男(果樹研・盛岡) モモチョッキリの幼虫越冬と成虫越冬	K211 ○木村澄 ¹ ・芳山三喜雄 ¹ ・松本崇 ¹ ・窪澤圭二郎 ¹ ・齋藤佳奈 ² (畜草研みつばちU ¹ ・筑波大 ² ・環 ²) ミツバチ不足に対応するための養蜂技術と花粉交配利用技術の高度化—その1—プロジェクトの概要と女王蜂作成技術の改善—	L211 ○徳田岳 ¹ ・北條優 ¹ ・仲原宏美 ¹ ・渡辺裕文 ² ・有岡学 ³ (琉球大 ¹ ・熱生研 ¹ ・生物研 ² ・東大院 ³ ・農 ³) タカサゴシロアリ中腸における消化酵素の分布様式と特性	11:45

3月28日(水) 午後 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	
G212 ○中川浩二・溝部信二・殿河内寿子(山口農林総セ) トビイロウンカに対するイミダクロプリド剤の運用による各種薬剤の感受性変化	H212 ○竹中勲 ¹ ・安川人央 ¹ ・松村美小夜 ² (奈良農総セ ¹ ・奈良中部農振事務所 ²) ホウレンソウケナガコナダニの増殖に対する土壌物理性の影響	I212 ○嘉田修平・藤崎憲治(京大院・農・昆虫生態) ナガカメムシ上科における非飛翔性進化と生活様式との関連の解析	J212 ○山下賢一・須藤健一(兵庫農技総セ) クモヘリカメムシ越冬明けの餌と次世代の発生	K212 ○久保良平 ¹ ・宮本雅章 ² ・佐々木正己 ³ ・小野正人 ³ (玉川大・院 ¹ ・群馬県農技セ・野菜第二 ² ・玉川大・院・学術研ミツバチ科学 ³) ミツバチ不足に対応するための養蜂技術と花粉交配利用技術の高度化—その2—人工花の作製に有効な花香成分の選定とそれをういた授粉昆虫の訪花誘導	L212 ○沼田英治 ¹ ・武方宏樹 ² ・松浦優 ² ・後藤慎介 ² ・佐藤綾 ³ ・吉岡英二 ⁴ (京大・院理 ¹ ・大阪市大・院理 ² ・琉大・理 ³ ・神戸山手大 ⁴) 概日時計と概潮汐時計をもつコオロギの活動リズム	15:15
G213 ○永山敦士 ¹ ・澤岬哲也 ¹ ・菊池義智 ² (沖縄農研 ¹ ・産総研・生物プロセス ²) カンシャコバネナガカメムシのMEP乳剤に対する薬剤抵抗性	H213 ○本田善之 ¹ ・天野洋 ² ・森直樹 ² ・網干貴子 ² ・中田恵久 ³ (山口農総セ ¹ ・京大農学研究科 ² ・サンケイ化学(株) ³) トラップを使ったホウレンソウケナガコナダニの誘引・定着物質の探索	I213 ○榎原充隆(東北農研) ダイズとツルマメの莢の裂開性にマメシクイガ幼虫が及ぼす影響	J213 ○外山晶敏 ¹ ・三代浩二 ¹ ・井原史雄 ¹ ・中野亮 ¹ ・泉洋平 ² (果樹研 ¹ ・岡山大 ²) 西南暖地からの勢力拡大が顕著なツヤアオカメムシ、その越冬能力と生態	K213 ○宮本雅章 ¹ ・久保良平 ² ・佐々木正己 ³ ・小野正人 ³ (群馬県農技セ・野菜第二 ¹ ・玉川大・院 ² ・玉川大・院・学術研ミツバチ科学 ³) ミツバチ不足に対応するための養蜂技術と花粉交配利用技術の高度化—その3—人工花を用いた授粉昆虫の訪花促進システムの効果検証	L213 ○田中一裕 ¹ ・宇田修 ² ・木村勇司 ³ ・渡康彦 ⁴ ・片桐千仍 ² (宮城学院女子大 ¹ ・北大低温研 ² ・青森県産技セ ³ ・芦屋大 ⁴) 脂質からみたコトウガの冬休眠と夏休眠	15:30
G214 ○内山徹・小澤朗人(静岡茶研センター) チャノコカクモンハマキのテブフェノジド剤抵抗性の遺伝様式	H214 ○後藤哲雄・亀山泰伸(茨城大・農・応動昆) スミスアケハダニにおける温度制御による卵態休眠誘導	I214 成田章太 ² ・岩谷靖 ² ・鶴井香織 ¹ ・本間淳 ³ (弘前大・男女共同参画 ¹ ・弘前大・理工・知能機械 ² ・University of Jyvaskyla ³) 後脚自切によるコバネイナゴの跳躍戦術の変化	J214 ○澤村信生・奈良良祐隆(島根農技セ) 島根県におけるクワコナカイガラムシの休眠卵の産下時期と覚醒時期について	K214 ○手塚俊行・田中栄嗣(株式会社アグリ総研) ミツバチ不足に対応するための養蜂技術と花粉交配利用技術の高度化—その4—潜熱蓄熱材を用いた送粉昆虫用保温カバーの開発—	L214 ○宇高寛子・Brent Sinclair (University of Western Ontario) シギゾウムシの一種 <i>Curculio glandium</i> の低温耐性	15:45
G215 ○杉本直也・刑部正博(京大院・農・生態情報) ナミハダニのシエノピラフェン抵抗性遺伝子とピリダベン抵抗性遺伝子の連鎖	H215 ○豊島真吾 ¹ ・天野洋 ² (農研機構野茶研 ¹ ・京都大学大学院農学研究科 ²) 外来カブリダニ類の識別方法	I215 ○野田詩織・山田佳廣・佐原寛美(三重大学 生物資源) セグロカマバチの寄主摂食戦略	J215 ○岩泉連・有本誠(横浜植防) カンシワマイマイ成虫の日周行動調査	K215 ○石井進之輔 ¹ ・佐々木哲彦 ¹ ・鈴木美穂 ² (玉川大学・農学研究科 ¹ ・愛知県発達研究所 ²) セイヨウミツバチのカーブ決定期におけるDNAメチル化の解析	L215 ○藤井告 ¹ ・川本宗孝 ¹ ・阿部広明 ² ・伴野豊 ³ ・勝間進 ¹ ・嶋田透 ¹ (東大農 ¹ ・農工大農 ² ・九大農 ³) カイコのアルビノ(a1)はテトラヒドロピオプテリン(BH4)生合成関連遺伝子に変異を持つ	16:00

3月28日(水) 午後 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	
G216 ○藤岡伸祐・中野元文・古谷敬(日本農業株式会社) 新規殺ダニ剤NNI-0711に関する研究(第3報) ハダニ類に対する作用特性	H216 ○岸本英成(果樹研・カンキツ) 3種花粉を餌としたときの土着カブリダニ類の発育・産卵特性	I216 ○金澤 美季(北大院・応動) イブリナガヒシダニ <i>Agisutemus iburiensis</i> はケナガスゴモリハダニ <i>Stigmaeopsis longus</i> の天敵であるか?	J216 ○竹内博昭・高橋明彦(農研機構・中央農研北陸研究センター) 上越市で採集したマメシクイガの累代飼育に適した温度	K216 ○目澤龍介(金沢工大・バイオ・化学) ミツバチ雄の性成熟に伴う生体アミンの動態と幼若ホルモンによる制御	L216 淵上惣一郎 ¹ ・日高亮子 ¹ ・北沢千里 ² ・山口中明 ^{1,3} (山口大・理 ¹ ・山口大・教育 ² ・山口大院・医学系 ³) ヒメアカタテハ幼虫の脳神経系に存在する蛹体色調節因子について	16:15
G217 ○中村有希 ¹ ・末次克行 ¹ ・古崎利紀 ¹ ・篠田徹郎 ¹ ・真田幸代 ² ・松村正哉 ² ・山本公子 ¹ ・野田博明 ¹ (生物研 ¹ ・九州沖縄農研 ²) 殺虫剤処理により発現変動するトビイロウンカ遺伝子のマイクロアレイ解析	H217 ○園田昌司 ¹ ・小原陽子 ¹ ・斯欽格日楽 ¹ ・豊島真吾 ² ・岸本英成 ³ ・日本典秀 ⁴ (岡山大・植物研 ¹ ・野茶研 ² ・果樹研 ³ ・中央農研 ⁴) 量的塩基配列決定法を用いたモモ圃場におけるカブリダニの種構成の推定	I217 ○鈴木文詞 ¹ ・小嶋健 ² ・竹田真木生 ³ ・佐久間正幸 ⁴ (千葉大・学振PD ¹ ・住友化学・農化研 ² ・神戸大院農・昆虫機能 ³ ・京大院農・昆虫生理 ⁴) 微小移動運動補償装置を用いた光に対するナミハダニの行動応答解析	J217 ○渡邊弘貴・畠山吉則・岩野秀俊・西村知良(日大生物資源) アカスジキンカメムシ <i>Poecillocoris lewisi</i> の集合性が摂食量と成長におよぼす影響	K217 ○佐々木謙 ¹ ・松山周平 ¹ ・長尾隆司 ¹ ・原野健一 ² (金沢工大・応用バイオ ¹ ・玉川大・脳科学研 ²) セイヨウミツバチにおける脳内ドーパミン量のカーブ差と合成系の制御機構	L217 ○丹羽隆介 ¹ ・塩谷天 ¹ ・島田(丹羽)裕子 ¹ ・藤本善徳 ² ・篠田徹郎 ³ (筑波大・生命環境 ¹ ・東工大院・理工 ² ・農生研 ³) 前胸腺で特異的に発現する新規遺伝子群の同定とエクジステロイド合成における機能の解明	16:30
G218 ○松田一彦 ¹ ・平田晃一 ¹ ・片岡沙織 ¹ ・古谷章悟 ¹ ・林英雄 ² (近大農・応生化 ¹ ・阪府大・生命環境 ²) 糸状菌が産生する殺虫性二次代謝産物 asperparaline A の活性発現機構	H218 ○下田武志 ¹ ・小堀陽一 ² (中央農研 ¹ ・国際農研 ²) ハダニ類の土着天敵昆虫3種に対する簡易飼育法の開発	I218 ○小嶋健 ^{1,2} ・佐久間正幸 ² (住友化学 ¹ ・京大院農 ²) 微小節足動物の走化性:ダニは濃度変化に応じて転回パターンを変える	J218 ○齊藤準・青木沙織(京工織大・応生) 木津川下流域におけるカワラバタの生息環境について	K218 ○松山周平(金沢工業大学) ミツバチワーカーのチロシン経口摂取による脳内ドーパミン・チラミン量の増加と産卵個体化の促進	L218 ○神村学 ¹ ・丹羽隆介 ² ・新美輝幸 ³ ・豊田衣子 ¹ ・上野千尋 ¹ ・志村幸子 ¹ ・木内信 ¹ (農業生物資源研 ¹ ・筑波大・生命環境 ² ・名古屋大・農 ³) カビ由来の脱皮ホルモン分解酵素を用いた簡便な脱皮ホルモン濃度低下法の開発	16:45
	H219 ○川口尚子・刑部正博(京大院農・生態情報) ナミハダニの休眠後摂食と体色変化					17:00

3月29日(木) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
9:00	A301 ○貴島圭介 ¹ ・来間美紀 ¹ ・菊地(多加喜)未可 ² ・大野豪 ¹ ・喜久村智子 ¹ ・兒玉博聖 ² ・上田重文 ³ (沖縄農研セ ¹ ・沖縄防除技術セ ² ・九州沖縄農研セ ³) 沖縄県におけるタバコナジラミバイオタイプQの分布拡大状況	B301 ○光川侑輝・佐藤一輝・竹内祐子・二井一禎(京大・農) 被害履歴から見たナラ枯れ抵抗性発達の様式	C301 ○西田律夫 ¹ ・タンケンホン ² (京大院農 ¹ ・元マレーシア理大 ²) ミカンコミバエ種群を誘引する <i>Bulbophyllum</i> 属ミバエランの花成分	D301 ○矢野栄二 ¹ ・行徳裕 ² (近畿大・農 ¹ ・熊本農研センター ²) 差分方程式モデルによるハウスメロンのCCYV感染予測	E301 ○岡留和伸(京都農技センター) オンシツコナジラミにおける誘引性の高い色の分光反射特性	F301 ○須藤正彬・酒居勇太・刑部正博(京大・農・生態情報) なぜ一部の植食性ダニだけが葉表に産卵するのか
9:15	A302 ○森光太郎・平野耕治(石原産業・中央研究所) 天敵利用の観点から栽培施設内気温と葉面温度との関係の検討	B302 ○大槻恵太・加進丈二(宮城古川農試) 合成性フェロモントラップを活用したウコンメイガの防除時期の評価	C302 ○田中文也(広島大学生物圏科学研究科) タテハチョウ成虫の味覚応答に対する酵母の影響	D302 ○土田祐大・増井伸一・片井祐介(静岡県農林技術研究所) 土着天敵ヒメオオメカメムシの薬剤感受性	E302 ○柴尾学 ¹ ・中村祐貴 ² ・田中寛 ¹ ・矢野栄二 ² (大阪環農水総研 ¹ ・近畿大・農 ²) LED光源と粘着板を組み合わせた誘殺トラップによるミナミキイロアザミウマの誘殺特性および気温との関係	F302 ○關戸智恵・矢野修一(京大院・農・生態情報) ハダニの休眠は捕食回避に直接・間接的に役立つ
9:30	A303 ○安達鉄矢 ¹ ・伊藤政雄 ¹ ・下元満喜 ¹ ・平田建彦 ² ・野町敦志 ² (高知農技セ ¹ ・高知防除所 ²) 高知県の施設イチゴで発生するヒラズハナアザミウマの防除に有効な薬剤の探索	B303 ○柳澤由加里・八瀬順也・田中雅也・山下賢一(兵庫農総セ) 兵庫県における近年のヒメトビウンカとイネ縞葉枯病の発生	C303 ○高瀬浩行 ¹ ・本田計一 ¹ ・大村尚 ¹ ・本田洋 ² (広島大・院・生物圏科学 ¹ ・筑波大・生命環境 ²) チョウの吸水行動：アンモニアを栄養源にしてタンパク質、精子を生産	D303 ○佐藤安志・上杉龍士(野茶研(金谷)) チャの新害虫チャトゲコナジラミは中国からの侵入害虫である	E303 ○島内円夏・大林崇・木下文子・山田英一(三井化学アグロ(株)) 新規殺虫剤レピメクチンに関する報告(3)：タバココナジラミバイオタイプQに対する作用特性	F303 ○大槻初音 ¹ ・矢野修一 ² (京大・農・生態情報 ¹ ・京大院・農・生態情報 ²) 異なる攻撃方法をとる捕食者がハダニの防御戦略を破綻させる
9:45	A304 ○溝部信二・唐津彦彦(山口農林総セ) 施設栽培イチゴにおけるナメクジ類の防除対策—ナメクジは秋1回だけの防除で根絶できる！—	B304 ○森本信生・吉田信代(農研機構畜産草地研究所 ¹) 飼料用トウモロコシにおけるアワノメイガの発生	C304 ○釘宮聡一 ¹ ・安部洋 ² ・下田武志 ³ ・上船雅義 ⁴ ・高林純示 ⁴ ((独)農環研 ¹ ・理研BRC ² ・中央農研 ³ ・京大・生態研 ⁴) コナガ食害誘導性植物揮発性成分に対するコマユバチ2種の反応—モデル植物シロイヌナズナを用いた生物間相互作用解析—	D304 ○小澤朗人 ¹ ・内山徹 ¹ ・小杉由紀夫 ² ・芳賀一 ² (静岡茶研センター ¹ ・静岡防除所 ²) 静岡県の茶園におけるチャトゲコナジラミの発生と発生動態	E304 ○宮本大輔(奈良農総セ・茶業振セ) チャ苗床でのジノテフラン灌注によるチャトゲコナジラミ防除効果	F304 ○矢野修一 ¹ ・城塚可奈子 ² (京大院・農・生態情報 ¹ ・京大・農・生態情報 ²) 「動かざること」がミカンハダニの最大の防御になる
10:00	A305 ○柳田裕紹 ¹ ・森田茂樹 ¹ ・中田寿雄 ² (福岡農総試 ¹ ・福岡県農大 ²) ハダニアザミウマを利用したイチゴ育苗期のハダニ類防除	B305 ○江村薫(埼玉農総研) フタオビコヤガの性フェロモントラップと有効積算温度による発生時期予測	C305 ○安部洋 ¹ ・富高保弘 ² ・立石剣 ³ ・下田武志 ² ・瀬尾茂美 ³ ・釘宮聡一 ⁴ ・大西純 ⁵ ・櫻井民人 ⁶ ・津田新哉 ² ・小林正智 ¹ (理研バイオリソースセンター ¹ ・中央農研 ² ・生物研 ³ ・農環研 ⁴ ・野茶研 ⁵ ・東北農研 ⁶) アザミウマ、ハモグリバエ抵抗性解明を目指した実験植物シロイヌナズナの利用	D305 ○山下幸司 ¹ ・笠井敦 ² ・吉安裕 ² (京都農技セ・茶研 ¹ ・京府大院・応用昆虫 ²) チャトゲコナジラミの密度とシルベストリコバチの寄生率の相互関係	E305 ○大矢武志 ¹ ・折原紀子・岡本昌広 ¹ ・植草秀敏(神奈川県農業技術センター) ダイコンにおけるトルフェンピラド乳剤を用いたナモグリバエおよび白さび病・わかば症に対する同時防除	F305 ○長泰行(千葉大・院・応用昆虫) エサの種間相互作用が捕食者のバッチ選択を変える

3月29日(木) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
10:15	A306 ○田中雅也・八瀬順也・柳澤由加里・山下賢一(兵庫農技総セ) 施設イチゴに発生するアブラムシのモニタリング手法の検討	B306 ○衛藤友紀・稲田稔(佐賀農業セ) フタオビコヤガのクレーク雑草における発生消長	C306 ○渡部宏 ¹ ・長谷川翔一 ¹ ・東田景太 ¹ ・矢野栄二 ¹ ・小澤理香 ² ・高林純示 ² (近大院・農 ¹ ・京大・生態研セ ²) アブラムシ甘露の揮発性成分に対するシヨクガタマバエの誘引と産卵誘起	D306 ○吉安裕 ¹ ・笠井敦 ² ・上杉龍士 ³ ・佐藤安志 ⁴ (京府大院・応用昆虫 ¹ ・京府大院・応用昆虫 ² ・野茶研金谷 ³ ・野茶研金谷 ⁴) チャの害虫チャトゲコナジラミに寄生するシルベストリコバチは新たな隠蔽種か	E306 ○上室剛・美座芳江(鹿児島農総セ) 鹿児島県におけるチャに寄生するカンザワハダニに対する農薬の殺虫効果	F306 ○岡部貴美子(森林総研) 野生きのこに生息するダニの多様性
10:30	A307 ○上船雅義・米谷衣代・山本正樹・高林純示(京大生態研センター) 天敵誘引剤・天敵活性化剤のコナガ防除効果と副次的効果	B307 ○安田哲也 ¹ ・望月文昭 ² ・安田美香 ¹ ・樋口博也 ¹ ・武田藍 ³ ・山下美代志 ² ・福本毅彦 ² (中央農研 ¹ ・信越化学 ² ・千葉農林総研 ³) アカスジカスミカメの合成フェロモン剤担体の種類と誘引活性	C307 ○土田努 ^{1,4} ・中林亮 ² ・鈴木実 ² ・斉藤和季 ^{2,3} ・松本正吾 ⁴ ・藤原亜希子 ¹ ・堀川美津代 ⁵ ・天野はるか ⁵ ・星山東變 ⁵ ・加来裕人 ⁵ ・角田鉄人 ⁵ (富山大・先端 ¹ ・理研PSC ² ・千葉大院・薬 ³ ・理研ASI ⁴ ・徳島文理大・薬 ⁵) アブラムシの体色を形成する緑色素の解析	D307 ○森井均 ¹ ・松田智子 ¹ ・松ヶ谷祐二 ¹ ・森伸幸 ¹ ・野村茂弘 ² (三重農研 茶業研究室・三重 中央農改 ²) 天敵温存植物(チトニア)の植栽がカブリダニ等の種構成に与える影響	E307 ○青山政義・西島裕恵(富山農総セ農研) 富山県内の園芸施設から採集したミカンキイロアザミウマの薬剤感受性	F307 ○五箇公一 ^{1,3} ・岡部貴美子 ² ・横山潤 ³ (国立環境研究所 ¹ ・森林総合研究所 ² ・山形大学 ³) 島嶼の昆虫・ダニ地理学～宮古島のヒラタクワガタと小笠原のクワガタナカセ
10:45	A308 ○塩尻かおり ¹ ・山下賢一 ² ・高林純示 ³ ・齋藤隆満 ² (京大・次世代 ¹ ・兵庫農技セ ² ・京大・生態研 ³) 植物間コミュニケーションを利用した農業技術開発	B308 ○奥谷恭代 ¹ ・安田哲也 ² ・望月文昭 ³ (鳥取農林総研農試 ¹ ・中央農研 ² ・信越化学 ³) イネ科雑草地におけるアカスジカスミカメ合成性フェロモントラップの発生消長	C308 ○大村尚 ¹ ・本田計一 ¹ ・伊藤隆夫 ² (広島大院・生物圏 ¹ ・広島大院・総合科学 ²) ルリシジミ雄成虫の香気に含まれる二種類のラクトン化合物	D308 ○口木文孝・井手洋一・野口真弓(佐賀果樹試) 佐賀県におけるチュウゴクナシキジラミ(仮称)の発生	E308 ○嶽崎研 ¹ ・宮路克彦 ¹ ・松比良邦彦 ² (鹿児島農総セ大島 ¹ ・鹿児島農総セ ²) 樹体サイズの大きいカンキツ樹上のミカンキジラミに対する薬剤防除の試み	F308 ○奥圭子・安田哲也(中央農研) アカスジカスミカメ雄成虫の揮発性成分と交尾の関係
11:00	A309 ○櫻井民人 ¹ ・富高保弘 ² ・安部洋 ³ ・津田新哉 ² (東北農研 ¹ ・中央農研 ² ・理研BRC ³) ミカンキイロアザミウマの分散行動に対するジャスモン酸およびトマト黄化えそウイルス処理植物の併用効果	B309 ○望月文昭 ¹ ・安田哲也 ² ・樋口博也 ² ・高橋明彦 ² ・石本万寿広 ³ ・中島具子 ⁴ ・西島裕恵 ⁵ ・佐藤正和 ⁶ (信越化学 ¹ ・中央農研 ² ・新潟農総研作物研 ³ ・山形農研 ⁴ ・富山農総技センター ⁵ ・青森農林総研 ⁶) アカヒゲホソミドリカスミカメの誘引剤問題点と新剤の開発	C309 ○吉岡弥生 ¹ ・本田計一 ¹ ・大村尚 ¹ ・本田洋 ² (広島大院・生物圏科学 ¹ ・筑波大・生命環境 ²) <i>Danaus</i> 属マダラチョウ雄の発香器官分泌物合成とピロリジンアルカロイド	D309 ○中田健 ¹ ・田中篤 ¹ ・大林華菜子 ² ・中秀司 ² ・岡山裕志 ³ (鳥取農林総研園試 ¹ ・鳥取大・農 ² ・鳥取県農政課 ³) 鳥取県におけるナシホソガ(ナシカワホソガ)の発生と対策	E309 ○安井洋子・森本涼子(和歌山かきもも研) 和歌山県におけるモモのカイガラムシ類の発生と薬剤の防除効果	F309 ○安田美香・安田哲也 ² ・石崎摩美・樋口博也(中央農業総合研究センター) 水田放牧地と周辺水田における斑点米カメムシ類の発生状況
11:15	A310 ○河村俊和・本田善之・出穂美和・東浦祥光(山口農林総セ) 露地ナスのソルゴー囲い込み栽培における土着天敵定着技術の開発	B310 ○高橋明彦 ¹ ・樋口博也 ¹ ・中島具子 ² ・横山克至 ² ・石本万寿広 ³ ・西島裕恵 ⁴ ・吉島利則 ⁴ ・浦野知 ⁵ (中央農研 ¹ ・北陸 ¹ ・山形農研セ ² ・新潟農総研作物研 ³ ・富山農総セ農研 ⁴ ・ペコIPM ⁵) アカヒゲホソミドリカスミカメ合成性フェロモントラップ誘殺数の空間分布	C310 ○中出彩 ¹ ・高松寛樹 ² ・藤崎憲治 ² ・小野肇 ¹ ・西田律夫 ¹ (京大院農・化学生態 ¹ ・京大院農・昆虫生態 ²) ツマグロヒョウモンは毒蝶か? 虫体に含まれる有毒成分の同定	D310 ○大林華菜子 ¹ ・DoNguyen Duc ² ・中田健 ³ ・安藤哲 ² ・中秀司 ¹ (鳥取大・農 ¹ ・東京農工大BASE ² ・鳥取農林総合園試 ³) ナシ害虫ナシカワホソガ <i>Spulerina astaurota</i> の合成性フェロモンに対する誘引特性	E310 ○手林慎一(高知大・農) フカノキ属植物由来の害虫防除活性物質	F310 ○佐々木雄悟 ¹ ・佐藤智 ² ・安田弘法(山形大・農) 水田の多様な生物の機能-8: 雑草の量や種類が節足動物の発生およびイネの生育に及ぼす影響

3月29日(木) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
11:30	A311 ○亀代美香・阿部成人・兼田武典(徳島農研) 植栽管理による露地ナスの害虫管理	B311 ○松野和夫・稲垣栄洋・市原実・芥木千恵子(静岡農林研) チガヤ畦畔の斑点米カメムシの発生リスクの評価	C311 ○上野高敏(九州大・農・生防研) 水田の捕食性ならびに捕食寄生性天敵の多様性を決定する要因	D311 ○大井田寛・河名利幸(千葉農林総研) ナシ園で発生するチャノキイロアザミウマの土着天敵とその発生活長	E311 ○河名利幸・大井田寛(千葉農林総研) ナシ園におけるチャノキイロアザミウマの発生活長	F311 ○TRISNAWATIDINA・塚本敬之・佐藤智・安田弘法(山形大・農) 水田の多様な生物の機能-9: 有機と慣行農法が水田生態系に与える影響 - コバネイナゴを中心に -
11:45	A312 ○井村岳男・神川諭(奈良農総七) 土着天敵を温存する植生管理を利用した露地ナスの減農薬栽培体系	B312 ○石崎摩美(中央農研) 飼料イネ水田および隣接する食用イネ水田におけるカメムシ目水稲害虫の発生活長	C312 ○広瀬義躬(九大) 日本産カメムシ下目昆虫の卵寄生蜂ギルドの解析-寄主卵サイズとギルドの種数および種構成の関係-	D312 ○三代浩二・井原史雄・外山晶敏・檜垣守男・土田聡・中野亮・高木一夫・足立礎(農研機構果樹研) ナシ園におけるカバープランツの被覆と天敵類の発生活長の変化- 3	E312 ○貴志学・井沼崇・森口幸宣(和歌山果試) ミカン開花始期を指標としたヤノネカイガラムシ第1世代幼虫初発日の簡易予測	F312 ○塚本敬之・DinaTrisnawati・佐藤智・安田弘法(山形大・農) 水田の多様な生物の機能-10: 水田湛水部の生物が地上部節足動物の発生とイネの生育に及ぼす影響

3月29日(木) 午後 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
15:15	A313 ○井口雅裕 ¹ ・福嶋総子 ² ・三浦一芸 ³ (和歌山農試 ¹ ・和歌山植防 ² ・近中四農研 ³) 目合い4mmネットで全面被覆した露地圃場でのヒメハナカメムシ類の発生状況	B313 ○横田啓(岩手農研) アカスジカスミカメによる斑点米形成時期	C313 ○西本浩之(愛知農総試) ミナミアオカメムシの天敵卵寄生蜂、ミツクリクロタマゴバチとクロアシカメムシタマゴクロバチ(仮称)の寄生生態の比較	D313 ○柳沼勝彦 ¹ ・伊藤伝 ¹ ・守谷友紀 ² ・豊島真吾 ³ ・新井朋徳 ⁴ (果樹研リンゴ ¹ ・果樹研リンゴ ² ・野茶研金谷 ³ ・果樹研ブドウ・カキ ⁴) 有機栽培を3年間継続したリンゴ園における害虫発生と被害	E313 ○石本ゆに・和田さと子・福地俊樹(アグロカネショウ) 新規線虫防除剤イミシアホスに関する研究ーネマキック粒剤の生物活性と作用特性ー	F313 ○馬可・佐藤智・安田弘法(山形大・農) メダカがイネの生育に及ぼす影響
15:30	A314 ○北村登史雄・武田光能(農研機構 野菜茶研) カスミカメムシ類防除薬剤のタイリクヒメハナカメムシの生存に対する影響	B314 ○大友令史 ¹ ・岩館康哉 ² (岩手防除所 ¹ ・岩手農研 ²) アカスジカスミカメによる時期別の斑点米被害発生リスク	C314 ○高須啓志(九大・院農) 夜間に産卵・寄主防衛を行う卵寄生蜂マルカメクロタマゴバチ	D314 ○城田安幸 ¹ ・城田創 ² ・菅野清孝 ¹ ・齋藤礁 ¹ (弘前大学・農学生命科学 ¹ ・医果同源りんご機能研究所 ²) 無農薬りんご園の害虫管理(8) 青森県大鰐町における、モモンシクタイガ1化性地帯の可能性	E314 ○桑原克也・高橋まさみ(群馬農技セ)施設キュウリにおけるカーバムナトリウム塩液剤のかん注処理によるネコブセンチュウ密度低減とキュウリ残さ枯死効果	F314 ○新井恭介・佐藤智・安田弘法(山形大・農学部) イネの植え付け深度がマルタニシによる肥料効果に及ぼす影響
15:45	A315 ○太田泉・武田光能(野菜茶業研究所) 天敵温存植物の花におけるタイリクヒメハナカメムシの生存	B315 ○橋本庸三(道総研 中央農試) イネの割れ初めの発生がアカヒゲホソミドリカスミカメの発育と産卵数に及ぼす影響	C315 赤坂泰基・○戒能洋一(筑波大・生命環境) コウラコマユバチ亜科寄生蜂2種による人工卵への産卵	D315 ○舟山健(秋田農技セ果樹試) リンゴ園に導入したシロクロパーがゴミムシ類の発生に及ぼす影響	E315 ○大石毅 ¹ ・與座一文 ¹ ・宮城聡子 ² ・砂川正幸 ¹ ・伊志嶺弘勝 ¹ ・小塚博昭 ¹ ・伊山和彦 ¹ (沖縄県農業研究センター ¹ ・沖縄県中部農業改良普及課 ²) 宮古島のトウガン圃場におけるネコブセンチュウの発生と防除	F315 ○松倉啓一郎・吉田和弘・和田節(九州農研) スクミリンゴガイとラプラタリンゴガイの交雑可能性
16:00	A316 ○大野和朗 ¹ ・佐藤信輔 ¹ ・佐藤正義 ² (宮崎大学農学部 ¹ ・住化テクノ ²) 露地ナスでの捕食者群集の多様性は減農薬・無農薬栽培で高まるのか	B316 ○桐谷幸生・平瀬寒月(三井化学アグロ(株)) イネカメムシの発生消長と稲稈の登熟状態との関係	C316 ○平井規央 ¹ ・van Nouhuys Saskya ² (大阪府立大学・生命 ¹ ・ヘルシキ大ノコネル大 ²) グランヴィルヒョウモンモドキの蛹に寄生する多寄生蜂 <i>Pteromalus apum</i> の産卵行動と性比調節	D316 ○望月雅俊・土田聡(農研機構 果樹研究所) チャノキイロアザミウマによるカキ果実被害の品種間差異はどうして生じる?	E316 ○柳生義人・川崎仁晴・大島多美子・須田義昭(佐世保高専) スクミリンゴガイの走電性および超音波暴露による殺傷特性	F316 ○和田節・松倉啓一郎(九州沖縄農研) スクミリンゴガイの越冬可能地域のマッピング
16:15	A317 ○中村務 ¹ ・杉村和実 ¹ ・結城利幸 ¹ ・大野和朗 ² (宮崎県総農試 ¹ ・宮崎大農 ²) ヒメハナカメムシ類の天敵温存植物としてのハーブ類の有用性	B317 ○田淵研 ¹ ・横須賀知之 ² ・寺田充芳 ² ・伊藤常雄 ⁴ ・安田哲也 ³ ・水谷信夫 ⁵ ・渡邊朋也 ³ ・守屋成一 ³ ・櫻井民人 ¹ ・榎原充 ¹ (東北農研 ¹ ・茨城農総セ農研 ² ・中央農研 ³ ・茨城県西農林事務所 ⁴ ・九農研 ⁵) クモヘリカメムシ越冬明け個体数に及ぼす景観要素と空間スケール	C317 ○三田村敏正・岸正広・松木伸浩(福島農総セ) ウコンノメイガ幼虫に寄生する糸片虫(シヘンチュウ)について		E317 ○森田茂樹・石井貴明・國丸謙二・柳田裕紹(福岡農総試) 施設キュウリのウリ類退緑黄化ウイルスに対する薬剤防除体系の検討	F317 ○上田絨司 ¹ ・俵谷圭太郎 ² ・佐藤智 ² ・村山秀樹 ² ・安田弘法 ² (岩手大院・連合農 ¹ ・山形大・農 ²) アーバスキュラー菌根共生とリン施肥量が地上部の植食者とそれらの捕食者の発生に及ぼす影響
16:30			C318 ○金子修治・加藤光弘・石井香奈子(静岡果樹研セ) 侵入天敵・モンクチビルテントウの静岡市内のキャンク園における発生状況	E318 ○十川和士 ¹ ・渡邊丈夫 ¹ ・相澤美里 ¹ ・熊野明美 ¹ ・伊藤政雄 ² (香川県農業試験場 ¹ ・高知県農業技術センター ²) 施設ニラにおけるアイリスイエロースポットウイルスに対する物理的防除	F318 ○西田隆義(滋賀県立大環境生態) 生物群集にみられる強い履歴効果についての試論	

3月29日(木) 午前 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	
G301 ○樋口聡志・行徳裕(熊本農研セ) キュウリ退緑黄化病に対するスワルスキーカブリダニの発病抑制効果	H301 ○酒井啓充(農研機構・中央農研) 線虫の形態計測値および常用される「ド・マンの表示法」についての一考察	I301 ○西出雄大・田中誠二(農生研・バッタ研究室) トノサマバッタに出現した「短翅型」と黒眼個体の発現様式と適応的意義	J301 ○笠井敦・小松原幸・吉安裕(京府大院・応用昆虫) 寄主植物がチャトゲコナジラミの分布におよぼす影響	K301 ○井上真紀 ¹ ・斎藤歩希 ¹ ・五箇公一 ¹ ・土田浩治 ² (国立環境研究所 ¹ ・岐阜大学 ²) セイヨウオオマルハナバチの日本導入に伴った社会構造の進化：女王が多回交尾する？	L301 ○小野肇・増田亮太・西田律夫(京大院・農) エクダイソン不活性化によるショウジョウバエの発育制御の解析	9:00
G302 ○松浦明(宮崎総農試) ビーマンの麻ひも展張によるスワルスキーカブリダニのカップ放飼法の労力低減効果	H302 ○神崎菜摘・田中龍聖(森林総研) ヨツボシモンシデムシより分離された寄生性線虫 <i>Peraphelenchus necrophori</i> の形態と系統	I302 ○田中誠二・西出雄大(農生研・バッタ研究室) サバクトビバッタの孤独相幼虫はオタマジャクシを見て黒化するか？	J302 ○井上大成(森林総研多摩) 関東地方におけるムラサキシジミ幼虫の頭幅	K302 ○前川清人 ¹ ・矢口甫 ¹ ・佐々木謙 ² (富山大院・理工 ¹ ・金沢工大・応用バイオ ²) ネバダオオシロアリの初期巣で兵隊分化を引き起こす要因	L302 ○横山拓彦 ¹ ・比留間潔 ¹ ・富田秀一郎 ² (岩手連合農学 ¹ ・生物研 ²) カイコの転写因子 BHR4の、エクダイソン合成に対する影響	9:15
G303 ○Phyu PhyuSan・中平賢吾・高木正見(Kyushu University) スワルスキーカブリダニとサトウダニの個体数増加に及ぼす飼育培地の影響	H303 ○星野滋 ¹ ・富樫一巳 ² (広島総研農技セ ¹ ・東京大学農学研究科 ²) イネシンガレセンチュウ個体群密度とイネへの定着および増殖の関係	I303 ○宮崎洋祐 ¹ ・田中一裕 ² ・渡康彦 ³ (芦屋大・臨床教育、学振PD ¹ ・宮城学院女子大・一般教育 ² ・芦屋大・臨床教育 ³) タマネギバエの羽化時刻に対する温度較差の影響	J303 ○菊地淳志(農研機構・近中四農研) ダイズ原種ツルマメの中国地方における昆虫相	K303 ○齊木亮太・前川清人(富山大院・理工) ヤマトシロアリの幼形生殖虫分化における幼若ホルモンの役割	L303 ○荻原麻理 ^{1,2} ・引場樹里 ¹ ・Taylor DeMar ³ ・片岡宏誌 ¹ (東京大学・新領域創成科学 ¹ ・日本学術振興会 ² ・筑波大学・生命環境科学 ³) マダニの脱皮及び卵形成期におけるエクジソン中間体動態の解析	9:30
G304 ○Noureddin A. Ghazy ¹ ・Takeshi Suzuki ^{1,2} ・Hiroshi Amano ³ ・Katsumi Ohyama ¹ (Chiba Univ. ¹ ・JSPS ² ・Kyoto Univ. ³) Effects of air temperature and water vapor pressure deficit on storage of the predatory mite <i>Neoseiulus californicus</i> (McGregor) (Acari: Phytoseiidae)	H304 ○相場聡 ¹ ・山下伸夫 ² ・森本晶 ² (北海道農研 ¹ ・東北農研 ²) 青森県および岩手県のダイズシストセンチュウ発生状況	I304 辻本渉・三高雄希・佐久間正幸(京大院農・昆虫生理) ゴキブリは時々停まって何をしているのか？	J304 ○長澤恵介 ¹ ・秋野順治 ² ・塚田森生 ³ (三重大・生物資源 ¹ ・京都工織大 ² ・三重大 ³) <i>Annona</i> 属の甲虫媒花の香気の経時的変化と成分	K304 ○日室千尋・横井智之・松浦健二(岡大院・環境・昆虫生態) シロアリ類3種における女王フェロモンの同定、比較	L304 ○小滝豊美 ¹ ・品田哲郎 ² ・貝原加奈子 ² ・大船泰史 ² ・沼田英治 ³ (農業生物資源研究所 ¹ ・大阪市大・院理 ² ・京大・院理 ³) カメムシ目昆虫におけるJHSB ₃ の普遍性：陸生カメムシとセミでの検討	9:45
G305 ○中石一英 ^{1,2} ・荒川良 ² (高知農技セ ¹ ・高知大・農 ²) 高知産チビトビカスミカメ属2種の発育期間、増殖能力および捕食能力	H305 ○高木素紀・後藤万紀・鹿島哲郎(茨城農総セ園芸研究所) 茨城県におけるレンコンネモグリセンチュウ <i>Hirschmanniella diversa</i> の被害状況と、レンコン田における発生消長	I305 ○安居拓恵・辻井直((独)農業生物資源研) ゴマダラカミキリの定位反応を解する寄主傷枝の匂い情報はいつ獲得されるのか	J305 ○今井良輔(三重大生物資源) クリイロデオキスイの日周活動	K305 ○柳川綾 ¹ ・吉村剛 ¹ ・横張文男 ² (京都大学 ¹ ・福岡大学 ²) イエシロアリ触角における湿度受容	L305 ○品田哲郎 ¹ ・貝原加奈子 ¹ ・大船泰史 ¹ ・沼田英治 ² ・小滝豊美 ³ (大阪市大院理 ¹ ・京大院理 ² ・農業生物資源研究所 ³) チャバネアオカメムシ由来の幼若ホルモン、JHSB ₃ の構造活性相関	10:00

3月29日(木) 午前 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	
G306 ○鈴木伸隆・新島恵子(玉川大・農学研究科) 捕食性昆虫ハネナガマキバサシガメ, <i>Nabis stenoferus</i> の生態的特徴と幼虫期の飼料が捕食能力に与える影響	H306 ○阿部成人(徳島県農業研究所) 砂地畑におけるネコブセンチュウ密度と被害度との関係について	I306 ○深谷緑 ^{1,2} ・高梨琢磨 ³ (東大・農・森林動物 ¹ ・日大・生物資源 ² ・森林総研 ³) カミキリムシは他個体の接近を「足音」振動によって認識する	J306 ○光畑雅宏 ¹ ・徳丸晋 ² (アリスライフサイエンス ¹ ・京都府農林水産部 ²) マルハナバチによる授粉が農産物の収量を増加させる	K306 ○沓掛磨也子 ¹ ・重信秀治 ² ・孟憲英 ¹ ・深津武馬 ¹ (産業技術総合研究所 ¹ ・基礎生物学研究所 ²) ゴール修復をおこなう兵隊アブラムシの細胞・発生基盤の解析	L306 金児雄 ¹ ・○比留間潔 ^{1,2} (弘前大・農生 ¹ ・岩手大・連大 ²) 脱皮行動誘導ホルモン(ETH)による幼若ホルモン生合成の促進	10:15
G307 ○新藤潤一 ¹ ・平野耕治 ² ・大朝真喜子 ² (青森産技セ 野菜研 ¹ ・石原産業 中央研 ²) アカマガシワクダアザミウマと光反射資材併用による夏秋イチゴのアザミウマ類防除	H307 ○水久保隆之・富高保弘・藤本岳人・津田新哉(中央農研) 微生物処理に組み合わせたメチオニン処理のネコブセンチュウ害軽減効果	I307 ○福井昌夫(京大院・農・昆虫生理) 3種エンマコオロギ間の種認識に関わるコーリングソングとメスの反応	J307 ○中村純 ¹ ・黒澤美穂 ¹ ・下村幸佑 ² ・乾沙王里 ² ・熊澤茂則 ² ・杉山靖正 ³ ・ChoiSu-Jin ⁴ ・AhnMok-Ryeon ⁴ (玉川大・ミツバチ科学 ¹ ・静県大・食品栄養科学 ² ・鹿児島大・水産学 ³ ・韓国東亜大・食品栄養 ⁴) 韓国済州島におけるプロポリス起源植物の探索	K307 ○伊藤克彦・志村幸子・門野敬子(生物研) カイコの眠期中におけるカイコ濃核病ウイルス1型の増殖	L307 ○盛雄治 ¹ ・金児雄 ¹ ・比留間潔 ^{1,2} (弘前大・農学生命 ¹ ・岩手大・連合農学 ²) カイコVerson's glandの体節特異的な細胞死	10:30
G308 ○中野昭雄 ¹ ・林鎬俊 ² ・小澤理香 ² ・上船雅義 ² ・高林純示 ² (徳島農研 ¹ ・京大生態研 ²) オクラ先端部におけるヒメハナカメムシ類と他の土着天敵の発生	H308 ○瀧村勇二 ¹ ・星野滋 ¹ ・水久保隆之 ² (広総研農技セ ¹ ・中央農研 ²) 微生物共接種によるトマトのネコブセンチュウ害軽減効果の現地実証	I308 ○高梨琢磨 ^{1,2} ・戒能洋一 ³ ・喜友名朝次 ⁴ ・松本和馬 ¹ (森林総研 ¹ ・同志社大NSBN研セ ² ・筑波大 ³ ・沖縄森研 ⁴) キオビエダシヤク幼虫における寄生バエの羽音を利用した寄生回避行動	J308 ○木村佳子・對馬千佳子・石栗陽一((地独)青森産技セりんご研) 減農薬栽培の環境保全効果の評価と殺虫剤散布回数との関係	K308 ○高務淳(森林総研) アワヨトウ昆虫ポックスウイルス <i>Mythimna separata entomopoxvirus</i> (MyseEV)の培養細胞への感染と組み換えウイルス作出	L308 ○金児雄 ¹ ・石原和成 ¹ ・比留間潔 ^{1,2} (弘前大学・農学生命科学部 ¹ ・岩手大学大学院・連合農学研究科 ²) 単一細胞の蛹コミットメント	10:45
G309 ○高木正見・中平賢吾・岩瀬俊一郎(九州大学・農院) わが国におけるヨーロッパトビチビアメバチの分布 (2011)	H309 ○伊藤賢治(農研機構・北農研) ジャガイモシストセンチュウ対抗植物におけるキタネグサレセンチュウ増殖とエンパク野生種混作による密度抑制効果	I309 ○中野亮・井原史雄・三代浩二・外山晶敏(果樹研1) モモノゴマダラノメイガの超音波交信	J309 ○小松原慈人 ¹ ・小野瀬晋司 ¹ ・樋口央紀 ² ・仲川清隆 ¹ ・宮澤陽夫 ¹ ・堀雅敏 ¹ (東北大学大学院農学研究科 ¹ ・プロジェクト・エム ²) カイコ幼虫による桑含有アザ糖類の蓄積とその利用に関する研究	K309 ○中島信彦・村上理都子(生物研) イネラギットスタントウイルスのタンパク質に結合するトビイロウンカタンパク質の探索	L309 ○粥川琢巳 ¹ ・水口智江可 ^{1,2} ・神村学 ¹ ・今西重雄 ¹ ・三田和英 ¹ ・篠田徹郎 ¹ (農生研 ¹ ・名大院・生命農 ²) JH応答配列を利用した新規IGRスクリーニングシステムの開発	11:00
G310 ○阿部芳久 ¹ ・小西和彦 ² (九大院比文生物多様性 ¹ ・北海道農研センター ²) 害虫ハモグリバエの生物的防除素材候補—アダチハモグリヤドリタマバチ(膜翅目:ヤドリタマバチ科):新寄主と分布記録	H310 ○奈良部孝 ¹ ・桂川尚彦 ² ・野村隆文 ³ ・執行達弘 ³ (北海道農研 ¹ ・雪印種苗 ² ・道総研工業試験場 ³) ジャガイモシストセンチュウに対するトマト由来ふ化促進資材の圃場における密度低減効果	I310 ○松本由記子・野田博明(農業生物資源研究所) トビイロウンカの光応答とオプシン遺伝子	J310 ○庄司観 ¹ ・秋山佳文 ³ ・鈴木将登 ² ・星野隆行 ¹ ・中村暢文 ² ・大野弘幸 ² ・森島圭祐 ³ (農工大 BASE ¹ ・農工大 工学府 ² ・阪大 工学研究科 ³) 昆虫体液中トレハロースを用いた昆虫搭載型バイオ燃料電池の開発	K310 ○畠山吉則・倉本恵理子・佐藤瑞穂・今泉亜由美・石井麻美・山本裕一・志賀野倫明・小田尚幸・西村知良・岩野秀俊(日大生物資源) キアゲハから分離された微孢子虫株の宿主感染動向	L310 ○富田秀一郎(生物研) 鱗翅目幼虫腹脚の発生メカニズム	11:15

3月29日(木) 午前 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	
<p>G311 ○高橋國人¹・山下賢一²(兵庫県養蜂振興会¹・兵庫農技総セ²) 天敵寄生蜂を利用したアルファルファタコゾウムシの防除</p>	<p>H311 ○高部真典(山形農総研水田農試) 山形県庄内地域で栽培されているエダマメ在来種のダイズシストセンチュウ抵抗性</p>	<p>I311 ○霜田政美¹・山口照美¹・上原拓也^{1,2}・小滝豊美¹(農業生物資源研¹・筑波大・生命環境²) チャバナアオカメムシの光応答反応：活動リズムと走光性について</p>	<p>J311 ○秋山佳丈¹・岩淵喜久男²・森島圭祐¹(阪大・工・機械¹・農工大・農・応用昆虫²) 昆虫筋組織によるバイオアクチュエータの創製とウェットロボティクスへの展開</p>	<p>K311 ○野田孝博¹・佐藤崇雄²・小野政輝³・飯牟禮和彦¹・荒木朋洋³(熊本農研セ¹・熊本産技セ²・東海大農³) 昆虫病原糸状菌 <i>Nomuraea riley</i> の C14-Sphingosine 誘導型発芽における補助因子と昆虫表面の栄養成分</p>	<p>L311 ○横井翔・小山裕明・水口智江可・田中利治・三浦健(名大院・生命農学) コクヌストモドキの抗微生物ペプチド遺伝子の発現制御機構の解析I-抗微生物ペプチド遺伝子のグループ分けとToll、IMD経路による制御</p>	11:30
<p>G312 ○村田未果¹・一木良子²・Ah NgeHtwe²・高野俊一郎²・菅野亘¹・望月淳¹・中村達²(独)農環研¹・(独)国際農研²) 改良人工飼料を用いたキムネクロナガハムシと寄生蜂の飼育</p>	<p>H312 ○加藤徹朗(京都大農) マツノザイセンチュウとその随伴細菌の調査</p>				<p>L312 ○小山裕明・横井翔・伊藤渉・水口智江可・田中利治・三浦健(名大院・生命農学) コクヌストモドキの抗微生物ペプチド遺伝子の発現制御機構の解析II-NF-kB family転写因子による制御</p>	11:45

3月29日(木) 午後 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	
G313 ○前田太郎(生物研) UV-B照射がイチゴの誘導防衛発現におよぼす影響	H313 ○吉田信代(畜産草地研) 牛の内部外部寄生虫駆除薬が放牧地の糞虫におよぼす影響	I312 ○針山孝彦 ^{1,4} ・下村政嗣 ^{2,4} ・石井大祐 ^{2,4} ・高久康春 ^{1,4} ・山濱由美 ¹ ・下澤楯夫 ^{3,4} (浜松医大・生物 ¹ ・東北大・WPI-AIMR ² ・北大・電子研 ³ ・CREST・JST ⁴) セミの翅に存在するナノ構造の機能1: 反射防止と撥水そして接着阻害	J312 ○上里卓己 ¹ ・守屋伸生 ¹ ・河野伸二 ¹ ・佐渡山安常 ² ・安田慶次 ² (沖縄防除セ ¹ ・沖縄農研セ ²) ミカンキジラミの広域防除から見えてきた生息場所の一事例	K312 ○佐藤大樹 ¹ ・高務淳 ² ・Shimazu Mitsuaki ³ (森林総研 ¹ ・森林総研 ² ・森林総研 ³) 日本産 <i>Beauveria brongniartii</i> の系統の所属について	L313 ○石田裕幸・尾崎まみこ(神戸院理) クロキンバエにおける忌避匂い物質による食欲減退機構: チラミン生合成酵素、代謝酵素、受容体遺伝子の発現と局在性	15:15
G314 ○中平賢吾・岩瀬俊一郎・高木正見(九大院・農・生防研) 侵入害虫アルファルファタコゾウムシによる被害と水田雑草群落の関係	H314 ○白石昭彦 ^{1,2} ・菊池恭則 ² (東北農研 ¹ ・岩手畜研 ²) フルメトリン油剤ボアオン法のアブ類防除効果	I313 ○弘中満太郎 ¹ ・向井裕美 ² ・山尾僚 ² ・魚津吉弘 ³ ・高久康春 ¹ ・針山孝彦 ¹ (浜松医大・生物 ¹ ・鹿児島大・連合農学 ² ・三菱レイコン ³) セミの翅に存在するナノ構造の機能2: 接着阻害とその応用	J313 ○井上広光(果樹研) ミカンキジラミ体内におけるカンキツグリーニング病原細菌の原位置検出	K313 ○西東力 ¹ ・高務淳 ² ・森伸幸 ³ ・山下幸司 ⁴ ・島津光明 ⁵ (静大農 ¹ ・森林総研 ² ・三重茶研 ³ ・京都茶研 ⁴ ・森林総研 ⁵) チャトゲコナジラミに流行病を引き起こしている寄生菌について	L314 ○佐野健志・横井翔・田中利治・三浦健(名大院・生命農) RNA干渉を用いた寄生蜂の毒液腺で発現する遺伝子の機能解析	15:30
G315 ○長坂幸吉・日本典秀・奥圭子・守屋成一(中央農研) エンサイの有機施設栽培における害虫の発生と天敵の利用	H315 ○北嶋康樹 ¹ ・渡部泰弘 ² (茨城大・農・応動昆 ¹ ・(株)フジ環境サービス ²) 医薬品工場におけるヒラタチャタテのモニタリングに適した「床置き式粘着トラップ」の設置方法	I314 ○岡田泰和 ¹ ・後藤寛貴 ² ・三浦徹 ² ・宮竹貴久 ¹ ・岡田賢祐 ¹ (岡大・環境学研究所 ¹ ・北大・環境科学院 ²) オオツノコクヌストモドキにおける闘争形質の形態的統合	J314 ○小堀陽一 ¹ ・高須夫悟 ² ・大藤泰雄 ³ (国際農研 ¹ ・奈良女子大 ² ・農研機構 ³) 個体ベースモデルによる激発地におけるカンキツグリーニング病防除手段の検討	K314 ○篠原忍 ¹ ・佐藤勝也 ² ・鳴海一成 ² ・田上陽介 ¹ ・西東力 ¹ (静大農 ¹ ・原子力機構 ²) 量子ビーム照射による昆虫病原糸状菌の殺菌剤耐性変異体作出の可能性	L315 ○篠田徹郎・粥川琢巳・岡田千恵子・田中良明・大門高明・末次克行・山本公子・野田博明(生物研) RNAiによるトビイロウンカの新規殺虫剤標的遺伝子の探索	15:45
G316 ○安部順一朗 ¹ ・熊倉裕史 ² ・飛川光治 ³ ・永井一哉 ³ (近中四農研 ¹ ・野茶研 ² ・岡山農研 ³) 露地栽培ピーマンにおける3種の景観植物の混植による植生管理技術の可能性		I315 谷村圭太 ¹ ・神松梨紗 ¹ ・門野敬子 ² ・小林淳 ¹ (山口大・農 ¹ ・生物研 ²) クワコの不揃いな蛹期間による生活史戦略の遺伝学的解析	J315 ○宇久田理恵 ¹ ・佐渡山安常 ¹ ・安佛尚志 ² ・深津武馬 ² (沖縄農研セ ¹ ・産総研 ²) 野外条件におけるミカンキジラミのカンキツグリーニング病原伝搬率と体内病原細菌濃度	K315 ○Yuyun Fitriana ¹ ・佐藤勝也 ² ・鳴海一成 ² ・田上陽介 ¹ ・西東力 ¹ (Shizuoka University ¹ ・QuBS, JAEA ²) イオンビームを用いた昆虫病原菌の高温耐性変異体の作出	L316 ○横山朋也 ¹ ・土田聡 ² (茨城農総七園研病虫 ¹ ・農研機構果樹研究所 ²) ナン個体群チャノキイロアザミウマにおけるITS2遺伝子のMultiplex-PCRによる系統判別及びCO遺伝子塩基配列に基づく種内変異解析	16:00
		I316 ○糸川健太郎 ¹ ・駒形修 ¹ ・葛西真治 ¹ ・川田均 ² ・富田隆史 ¹ (国立感染症研究所 ¹ ・長崎大学熱帯医学研究所 ²) 殺虫剤抵抗性CYP9M10ハプロタイプの分子進化と拡散				16:15